

平成28年度千葉県バレーボール協会 B級審判員資格認定審査会

問1 次の平成28年度6人制競技規則について、()に当てはまる数字を語群から選び答えなさい。なお、数字については複数回使用可とする。

(1) 国際バレーボール連盟世界・公式大会では、フリーゾーンの幅はサイドラインから最小限(①)m、エンドラインから最小限(②)mなければならない。フリープレー空間は競技エリアの表面から最小限(③)mの高さが必要である。

(2) FIVB世界・公式大会では、アタックラインはサイドラインから外側に、長さ(④)cm、幅(⑤)cmの短いラインを(⑥)cm間隔で、全長(⑦)mとなる破線を引き、延長される。

(3) “監督制限ライン”(アタックラインからエンドラインまでの長さで、サイドラインと(⑧)mの間隔で平行に引かれる破線)は、長さ(⑨)cmの短いラインを(⑩)cm間隔で引かれ、監督活動エリアが制限される。

(4) FIVB世界・公式大会では、ウォームアップエリアがそれぞれのベンチ側フリーゾーンの外側のコーナーに、約(⑪)m×(⑪)mの広さで設けられる。

(5) 試合のために1チームは(⑫)人までの選手とスタッフで構成することができる。

(6) タイムアウトはボールがアウトオブプレーでサービスのホイッスルの前に該当するハンドシグナルを示して要求しなければならない。チームの要求によるタイムアウトは(⑬)秒間である。

(7) インターバルとはセット間の時間をいう。すべてのインターバルは(⑭)分間である。

(8) ボールの規格について当てはまる数字を答えなさい。

円周 : (65) ~ (⑮) cm

重さ : (260) ~ (⑯) g

内気圧 : (0.30) ~ (⑰) kg/cm²

<語群>

12.5 / 15 / 8.5 / 25 / 3 / 9 / 270 / 20 / 8
6.5 / 1.75 / 0.31 / 6.5 / 270 / 67 / 280 / 14
12

問2 次の文章は副審の責務について示す項目が書いてあります。()の中に当てはまる語句を語群から選び答えなさい。

- (1) 相手コートおよび(ア)の空間へ侵入したとき。
- (2) (イ)チームのポジションの反則のとき。
- (3) 主として(ウ)側のタッチネットの反則と、選手が副審側のアンテナに触れたとき。
- (4) バックプレーヤーが(エ)の完了をしたときや、リベロがブロックの試みをしたとき。またはバックプレーヤーやリベロの(オ)の反則のとき。
- (5) ボールが(カ)に触れたとき。
- (6) ボールがフロアに触れて、(キ)がその接触を確認できないとき。
- (7) 相手コートに向かうボールの全体またはその一部が副審側の(ク)外側を通過したとき、あるいは副審側のアンテナにボールが触れたとき。

<語群>

ブロッカー / 天井 / 許容範囲 / 主審 / フリーゾーン / スパイク
ラインジャッジ / アタックヒット / 外部の物体 / ブロック
ネット下方 / 審判員 / 許容空間 / 守備 / 副審 / レシービング

問3 次の文章を読んで正しいものには○、間違っているものは×をつけなさい。

- (1) 試合開始前のトスで、トスに勝ったチームは「サービスを打つか、サービスをレシーブするか」または「どちらのコートに入るか」を選ぶことができる。
- (2) サーバーがサービスヒットの瞬間にエンドラインを踏んでサービスを打ったが、同時にレシーブ側のチームのポジショナルフォルトの反則があった。このとき、同時に反則があったとして、主審はダブルフォルトを宣告し、ラリーをやり直した。
- (3) ブロックでは、相手チームのアタックヒットの前または最中にそのプレーを妨害しない限り、手をネットを超えて伸ばしてもよい。
- (4) 相手チームのプレーを妨害しない限り、足首より上の身体のどの部分が相手コートに触れてもよい。
- (5) サービスとブロックを除き、ボールを相手チームに送るすべての動作は、アタックヒットとみなされる。

- (6) バックプレーヤーがフロントゾーンにおいて、ネット上端よりも完全に高い位置にあるボールのアタックヒットを行い相手コートに返球した。その際主審が吹笛しなかったため、副審が吹笛し、アタックヒットの反則のハンドシグナルを示した。
- (7) バックゾーンにいるリベロが指を使ったオーバーハンドパスで上げたボールを、他の選手がネット上端よりも高い位置でアタックヒットを完了した場合、アタックヒットの反則となる。
- (8) ブロックは、ブロッカーがジャンプし、地面に着地した時点で完了する。
- (9) 主審の最終判定が出された後、選手が判定に対して不満な態度で主審に対してアピールした。この場合、それ以前にステージ1の適用がなければ、ステージ1を与えて再発を防ぐ。
- (10) サービス許可の吹笛が行われた後に監督がタイムアウトを要求したが副審は拒否した。該当チームは不当な要求をすでに1回行っていたため、そのラリー終了後、主審は該当チームにディレイワーニングを示し遅延警告を宣告した。
- (11) インプレー中の選手が負傷してプレーが続行できなくなった。控えの選手はいたが、このチームは選手交代を6回行っていたため、主審はチームに対してチーム不完全を宣告し、相手チームの勝利とした。
- (12) リベロが退場または失格となった場合で、セカンドリベロが登録されていないとき、チームはリベロの再指名を行うことができる。
- (13) ボールがネット下の空間で相手コートに向かっているとき、ボール全体がネットの垂直面を越える瞬間までプレーすることができる。
- (14) 主審のサービス許可の吹笛の瞬間に、バックレフトの前足の位置が、フロントレフトの前足の位置よりもセンターライン寄りに位置していたので副審は直ちに吹笛し、ポジショナルフォルトを宣告した。
- (15) アンテナの外側から相手空間内のボールをブロックした場合、ブロックの反則となる。
- (16) ラリーとは、サービス許可の吹笛の時点から、ボールがアウトオブプレーとなるまでの、一連のプレーの動作である。
- (17) ラリー中、ダブルフォルトが宣告されラリーがやり直しになった。その際、サービス許可の吹笛の前であれば、タイムアウトや選手交代の要求は許可される。
- (18) 主審の判定に対して、監督がベンチから立ち上がって主審に詰めよるような態度で抗議を行った。該当チームには、ステージ1の適用がなかったので、ステージ1を適用し、キャプテンに口頭で注意を与えた。
- (19) 「キャッチ」とはボールをつかむ、または投げることである。
- (20) リベロプレイヤーはどの位置にいても、ネットよりも完全に高い位置にあるボールのアタックヒットを完了することはできない。

9人制

問1 次の平成28年度9人制規則について、()に当てはまる語句または数字を語群から選び答えなさい。なお、数字については複数回使用可とする。

- (1) 競技場の表面から最小限 (①) mの高さまでの空間には、ネット、支柱、審判台を除き、一切の障害物もあってはならない。
- (2) コートの広さは、種別に応じて、次のとおりとする。

種 別		長 さ	幅
男 子	一般	(②) m	(③) m
女 子	一般・家庭婦人	(④) m	(⑤) m

- (3) ネットの高さは、種別に応じて、次のとおりとする。

種 別		高 さ
男 子	一般	(⑥) m
女 子	一般	(⑦) m
	家庭婦人	(⑧) m

- (4) アンテナは、ネット上に (⑨) cm出るようにして、サイドバンド外側 (⑩) cmのところアンテナの内側がくるようにし、それぞれネット反対側に密着して取り付ける。
- (5) 選手交代は1セットにつき (⑪) 回まで要求することができる。ただし同じ中断中に連続して要求することはできない。同じチームによる2つの別々の選手交代の間には、ラリーの終了がなければならない。
- (6) セット間の中断は (⑫) 分間とする。この間、選手はコートから離れチームベンチ近くにいななければならない。ただし、他の試合の妨げとならない限り (⑬) 後方のフリーゾーンでボールを使用してウォームアップすることができる。

<語群>

自チーム / 15 / 100 / 25 / 3 / 9 / 21 / 20 / 80
 2.05 / エンドライン / 12.5 / 2.30 / 2.43 / 2.0
 6 / 30 / 2.15 / 18 / 5 / 2.24 / 10.5 / 2.38

問2 次の文章を読んで正しいものには○、間違っているものは×をつけなさい。

- (1) プレー中に選手がアンテナ外側のネットに触れたが、相手チームのプレーを妨害しなかったため、そのままプレーを続行した。
- (2) サービス順の点検時に、サービスオーダー票に記載されていない選手がエンドライン上に並んでいた。監督に確認したところその選手を先発選手にしたいと申し入れがあった。試合開始前だったので申し入れを許可し、記録員は記録用紙の変更をした。
- (3) セット終了時にベンチにいた選手は、誰とでも交代して、次のセットの先発選手になることができる。この交代は、選手交代の回数に含まれる。
- (4) 第1サービスのトスをした後、そのサーバーは間違いに気づき正当なサーバーと交代した。トスをしたボールはサーバーの身体に触れていなかったため、正当なサーバーの第2サービスで試合を再開した。